

鳥獣けものみち

No. **09**
2025. 10. 1
発行

はじめまして！

鳥獣被害対策専門員のお仕事

— 対策は活発化、鳥獣は鎮静化、安全・安心を守ります —

今年の8月、長岡市役所に鳥獣被害対策専門員が着任しました。地域における鳥獣被害対策の新たな担い手として、活躍が期待されています。仕事の内容や人柄についてインタビューしました。

まずは自己紹介を。

鈴木暁慈朗(すずき・あきじろう)といいます。埼玉県出身で、鳥獣被害対策のプロフェッショナルになりたいという想いから長岡市へ移住し、新潟県地域おこし協力隊として、イノシシの捕獲技術や、クマの人身被害防止の講演会の講師などをしながら、3年間活動してきました。

現在は長岡市鳥獣被害対策専門員として、鳥獣被害対策の推進のため、栃尾地域を中心にサル・クマ対策をしています。皆さんとの交流は丁寧に、鳥獣対策は徹底的に、笑顔で元気に活動していきます。これからどうぞよろしくお願いします。



普段の仕事は。

栃尾支所2階の栃尾地域事務所・鳥獣被害対策班に在籍しています。栃尾地域にはサルの群れが生息していて、生活被害や農作物被害が発生しています。これらの対策として、わなによる捕獲や、GPS首輪といったICT機器を活用した群れの管理など、地域事務所や実施隊、地域の皆さんと協力して、対策にあたっています。専門員として現場で体を動かすだけでなく、最新の技術も取り入れていきたいと考えています。

その他にもこんな仕事をしています！

電気柵を点検する作業や、実施隊としてクマやイノシシの有害捕獲にも取り組んでいます。県の地域おこし協力隊として活動していた今年の5月には、鳥獣被害対策課の職員と「花いっぱいフェア2025」で、野生動物を知り、鳥獣被害を防ぐための対策方法を広報しました。また、市の支援事業についての学習会なども開催しています。

ケモノの気持ち、略して「ケモチ」になって考えることをモットーに、今後も鳥獣被害対策の第一線で活動していきます。



情報
求む!

見た目はカワイイ、でもその本性は...

アライグマに注意!!



- ・雑食で、農作物に大きな被害を与えます。市内では、飼育魚の食害もあります。
- ・特定外来生物で、生態系への影響が懸念されます。
- ・噛まれると非常に危険です。感染症を引き起こす恐れもあります。

入力フォームは
こちら↓

長岡市内でアライグマを見かけたら、まずは鳥獣被害対策課へご連絡ください！

※可能であれば、写真や動画を撮影してください。





鳥獣被害対策の四季

ながしげ
—長重さんちの4兄弟—



春夏秋冬、鳥獣被害対策は大忙しです。鳥獣の動きに合わせて、できるだけ少ない労力で効果的な対策ができるよう、長重家では兄弟それぞれが協力して汗を流しています。



特に！秋から冬のけものたち

秋から冬にかけての鳥獣の動きは、さまざまです。基本的には、実りの多い秋は食べ物を求めて市街地に出没する事例が多くなり、エサが少なくなる冬は動物の出没が減ります。

冬はクマの大半が冬眠をしますが、近年は十分なエサを蓄えられなかったクマが、市街地に出没するという事例もあります。

また長岡市では、雪で道がふさがり、イノシシが山に帰れず、市街地に出没するという事例がありました。降雪前の時期は特にエサとなるようなものを放置せず、戸締りをしっかりして、鳥獣を寄せ付けないようにしましょう。



雪で帰れなくなったイノシシ